



Oracleホワイト・ペーパー
2012年3月

Oracleアプリケーション開発ツール Statement of Direction : Oracle Forms、 Oracle Reports、およびOracle Designer

免責事項

本書には、書式、ソフトウェアまたは印刷物のいかんによらず、オラクルが独占的に所有する独自の情報が含まれています。この機密資料の使用にあたっては、履行され遵守に同意されたOracleソフトウェア・ライセンスおよび品質保証契約の契約条件に従うものとします。本書とここに含まれる情報は、オラクルの事前の同意を得ることなく、オラクル以外の者に開示、複写、複製または配布することが禁じられています。本書は、ライセンス契約の一部をなすものではなく、オラクル、その子会社または関連会社とのいかなる契約上の合意事項にも組み込まれるものではありません。

本書は、情報提供のみを目的としており、記述した製品機能の実装およびアップグレードの計画における支援のみを行うものです。マテリアルやコード、機能の提供をコミットメント（確約）するものではなく、購買を決定する際の判断材料になさらないで下さい。本書に記載されている機能の開発、リリース、および時期については、弊社の裁量により決定されます。

製品アーキテクチャの性質上、本書に記述されているすべての機能を安全に組み込むことができず、コードの不安定化という深刻なリスクを伴う場合があります。

概要.....	2
オラクルの製品戦略	2
アプリケーション開発ツール.....	2
将来の投資	3
オラクルのサポート・ポリシー	3
オラクルのライフタイム・サポート・ポリシー	3
ユーザーへの推奨事項.....	4
保護、拡張、発展	4
Oracle BI Publisherを使用した新しいレポートの開発	5
Oracle FormsおよびOracle Reportsから移行する場合の推奨事項.....	6
結論.....	7

概要

Oracle Fusion MiddlewareのコンポーネントであるOracle FormsおよびOracle Reportsは、エンタープライズ・アプリケーションの迅速かつ効率的な設計と構築のために、オラクルが長年に渡って築き上げてきたテクノロジーです。オラクルはOracleプラットフォームのコンポーネントとして、これらのテクノロジーの開発や将来のリリースに引き続き取り組んでいきます。Oracle FormsおよびOracle Reportsに対するこのような取組みの継続によって、既存のOracle FormsおよびOracle Reportsアプリケーションを容易にアップグレードし統合することで既存の投資を活用し、Webテクノロジーやサービス指向アーキテクチャ（SOA）を利用できるようになります。

Oracle Forms、Oracle Reports、Oracle Designerを使用して開発されたアプリケーションに多大な投資をしてきたオラクルのユーザーから、これらの製品に対するオラクルの戦略と取組みに関する質問が頻繁に寄せられています。このホワイト・ペーパーでは、こうした質問に回答するため、オラクルのソフトウェア開発ツールに関する戦略を要約して説明します。

このドキュメントは3つの項で構成されています。最初の項では、Oracle Forms、Oracle Reports、およびOracle Designerに対するオラクルのソフトウェア開発戦略について説明します。次に、これらの製品の特定のリリースに対するオラクルのサポート・ポリシーと今後の予定について説明します。最後に、これらの製品のユーザーへの具体的な推奨事項について述べます。

オラクルの製品戦略

アプリケーション開発ツール

オラクルは、Oracle Fusion Middleware上でのエンタープライズ・アプリケーションの開発を可能にするツールを提供することを、開発ツールに対する戦略としています。これらのソフトウェア開発ツールは、次の2つの並列した製品群から構成されます。

オラクルの従来型開発ツール

このソリューション・セットは、Oracle Designerのモデリング環境、Oracle Formsのアプリケーション開発フレームワーク、そしてOracle Reportsのバッチおよびスケジュール型のレポート作成ソリューションから構成されます。これらのツールのプログラミング言語と実行環境はPL/SQLです。

Java開発ツール

Java EEプラットフォームが台頭し、広範に導入されたことから、Java EEプラットフォームは業界標準となっており、オラクルによるOracle Fusion Applicationsに対する戦略の方向性と合致しています。

オラクルは、Java EEプラットフォームでエンタープライズ・アプリケーションを構築するための完全な統合開発環境であるOracle JDeveloperを提供しています。また、Java EEアプリケーションを構築するための標準ベースの生産的フレームワークとして、Oracle Application Development Framework (Oracle ADF) が提供されています。プログラミング言語はJavaであり、ランタイムにはJava EEに準拠したコンテナを使用できます。

Oracle Business Intelligence Publisher (Oracle BI Publisher) でも、エンタープライズ・クラスのレポート作成ソリューションの開発と配信のために、Java EEプラットフォームとオープン標準技術を活用しています。

将来の投資

オラクルは両方のテクノロジーに投資していますが、それぞれのソリューションに対する市場ニーズによって、重点を置く具体的な投資対象は異なります。Oracle WebLogic ServerをベースとするOracle Fusion Middlewareでは、両方のテクノロジーの配置と統合、および共通サービスの共有が可能な共通ランタイム環境を提供しています。

オラクルのサポート・ポリシー

Oracle Forms、Oracle Reports、Oracle Designerのインストール・ベースは大規模かつ非常にアクティブであり、これらのツールを使用して開発されたアプリケーションは、オラクル自身のOracle E-Business Suiteをはじめとして、多くの企業の基盤となっています。オラクルはこのような多大な投資について認識しており、これらの製品に対して長期的にサポートします。

オラクルのライフタイム・サポート・ポリシー

Oracle製品に対するサポートのレベルと日付は、オラクルのライフタイム・サポート・ポリシーにより定められています。このドキュメントに記載された製品のサポート期間については、次のWebサイトを参照してください。

<http://www.oracle.com/support/library/brochure/lifetime-support-middleware.pdf>

これらの開発ツールについて、具体的な計画はそれぞれ次のとおりです。

Oracle Forms

Oracle Formsに対するサポートが廃止される予定はありません。さらに、Oracle Formsの新バージョンであるOracle Forms 12cが、Oracle Fusion Middleware 12cのコンポーネントとしてリリースされる予定です。

今後は、オラクルの製品戦略に従って、バージョン間でのアップグレードを円滑にし、プラットフォームおよびテクノロジー・スタックによる機能を統合し、製品の安定性を維持することを目的とした開発が実施されます。

Oracle Reports

Oracle Reportsに対する最新の主要な変更は、10gのリリース時に実施されました。それ以降、Oracle Reports 11g Release 1および11g Release 2で、限定的な新機能が追加されています。Oracle Reportsに対しては10g以降、安定性の維持とバグ修正を中心とした開発を実施しています。今後、Oracle Fusion Middleware 12cの一部としてOracle Reports 12cをリリースする予定です。

ただし、オラクルの現在の戦略的なレポート作成ソリューションは、Oracle BI Publisherです。Oracle Reportsに対するオラクルのサポートは今後も継続しますが、ユーザーにはOracle BI Publisherへの移行を計画し始めることをお勧めします。Oracle E-Business Suite、Siebel CRM、JD Edwardsなど、オラクルの多くのアプリケーションや製品ではすでに、以前のレポート作成ツールからOracle BI Publisherに置き換えて利用するようにレポート作成インフラストラクチャが変更されました。

Oracle Designer

Oracle Designer 10gがこの製品の最新バージョンであり、Oracle Developer Suite 10gのコンポーネントとしてリリースされました。Oracle DesignerはOracle Fusion Middleware 11gのコンポーネントとしてはリリースされておらず、Oracle Fusion Middleware 12cのコンポーネントとなる計画もありません。Oracle Supportでは引き続き、維持可能な水準でOracle Designer 10gのサポートを提供します。

ユーザーへの推奨事項

Oracle Forms、Oracle Reports、Oracle Designerのユーザーからアプリケーション開発戦略に関する具体的な推奨事項が求められていることから、この項では、具体的なアドバイスについて述べます。

保護、拡張、発展

オラクルは、ユーザーが従来のテクノロジーに対する多大な投資を保護しながら、発展中の開発や新規開発のために新しいツールやテクノロジーを導入できるような戦略を示しています。

最新リリースへのアップグレード

既存のテクノロジーに対する投資を保護するには、新しいオペレーティング・システム、ハードウェア、ブラウザ、データベースのリリースや機能について、可能な限り最適なサポートを保証する最新のリリースにアップグレードしてください。

Oracle Fusion Middlewareの強力な機能の活用

Oracle Fusion Middlewareは既存のOracle FormsやOracle Reportsのアプリケーションを実行するリッチ・プラットフォームであり、さらに次のような新しい機能やテクノロジー、あるいは補完的な機能やテクノロジーとの統合にも対応します。

- ユーザー・エクスペリエンスの洞察
- コンテンツ管理
- ビジネス・インテリジェンス
- SOAとプロセス管理
- データ・サービス
- セキュリティ
- ID管理
- エンタープライズ管理

Oracle JDeveloperを使用した新しいアプリケーション・モジュールの開発

Oracle JDeveloperおよびOracle ADFでは、Oracle Formsで特徴的なCRUDトランザクション・アプリケーションの枠を越えた一連のツールとテクノロジーを提供しています。そのため、Oracle JDeveloperとOracle ADFを採用すれば、新しいビジネスや発展中のビジネスを、より適切に推進できる可能性があります。たとえば、新しいビジネスを推進するには、標準ベースの環境や、モバイル、Webサービス、Web 2.0などの新しいアプリケーション配信チャネルへの移行が必要となる場合があります。また、新しいビジネスを推進するために、オラクルの新しいOracle Fusionビジネス・アプリケーションを含むオラクル独自のテクノロジーの選択に従いたいと思うような場合もあるでしょう。

そのため、新しいアプリケーション開発をOracle JDeveloper 11gおよびOracle ADFの組合せに変更するという戦略的な選択を行うための決定が可能になります。この組合せは、Oracle Formsの生産性と使いやすさをJava EEプラットフォームに展開した、非常に視覚的な宣言型の開発環境です。このような新しいアプリケーションは、Oracle FormsおよびOracle Reportsアプリケーションと同じアプリケーション・サーバーに配置できるため、同じインフラストラクチャ、SOA Webサービス、BPELワークフロー、データ、PL/SQLストアド・プロシージャを共有できます。

Oracle BI Publisherを使用した新しいレポートの開発

レポートの作成やレポートの大幅な更新が必要な場合は、Oracle BI Publisherを活用することをお勧めします。Oracle BI Publisherは、Oracle Reportsで馴染みのある幅広いレポート形式や出力先に加えて、インタラクティブな管理レポートを提供しています。また、Oracle BI PublisherではSOA Webサービス、データベース・プロシージャ、スプレッドシート、ERP/HR/CRMアプリケーション、BPELワークフローなどのさまざまな情報源からデータを取得することもできます。

Oracle BI Publisherを利用すれば、レポートの作成や変更をエンドユーザーにまで展開し、エンドユーザーがWebブラウザでレポートを設計し、また、Microsoft Word、Microsoft Excel、Adobe Acrobatなどの馴染みのあるデスクトップ・ツールを利用できます。これらのレポートは、Oracle JDeveloperで構築したアプリケーションと共に、Oracle FormsおよびOracle Reportsアプリケーションと同じアプリケーション・サーバー上で実行できます。

Oracle FormsおよびOracle Reportsから移行する場合の推奨事項

ビジネスによって、既存のアプリケーションをOracle Formsから別のテクノロジーに移行することが推進される場合もあります。たとえば、Oracle Formsがアプリケーション要件を満たす最適な製品ではなくなった場合や、異種、異機種の開発環境を統合する戦略を採用するような場合です。既存のOracle FormsおよびOracle Reportsアプリケーションの移行が避けられない強いビジネス要因がある各ユーザーに対して、オラクルは次の推奨事項を示します。

次の特徴に当てはまるOracle Formsまたはアプリケーション開発要件の場合：

- アプリケーション自体に大量のビジネス・ルールやUI制御ロジックが含まれている
- Oracle Fusion Applicationsやその他のサード・パーティ・アプリケーションとの統合、およびそれらのアプリケーションへのアクセスが必要である
- Oracle Fusion Middlewareが提供する機能（BPM、BIP、WebCenter、SOAなど）を利用する必要がある
- 処理時間の大部分がアプリケーションで費やされ、複数の中間層を追加することでスケーラビリティを確保できるような大規模環境である
- 完全な開発ライフサイクル・サポートを必要とする大規模な開発チームである
- 全体的にJava/JEEテクノロジーの利用を望んでいる

Oracle JDeveloper 11gとOracle ADFの組合せは、Oracle Fusion Middlewareでアプリケーションを構築する場合の最適なツールです。ただし、Java EEとOracle Formsとの間にはアーキテクチャ上の違いがあるため、これらのツールで構築されたアプリケーションをJava EEに自動的に移行するといった完全な移行ソリューションを提供する予定はありません。その代わりに、オラクルは、Oracle Formsと同様の概念を持つJava EE開発環境を提供することを戦略としています。これにより、Oracle Forms開発者は、新しくはあっても馴染みのある環境で生産性の高い開発を行う機会を得ることができます。また、Oracle Forms開発者がOracle JDeveloperおよびOracle ADFをすぐに習得できるような、特定のドキュメントとトレーニング・プログラムを提供します。

次の特徴に当てはまるOracle Formsユーザーの場合：

- アプリケーション・ロジックのほとんどがデータベース常駐型PL/SQLである
- 処理時間の大部分がデータベースで費やされ、データベース・サーバーのスケール・アップによってスケーラビリティを確保できるような大規模環境である
- 適度な開発ライフサイクル・サポートを必要とする小規模な開発チームである
- Javaのスキルがない、またはJavaを学習する予定がない

この場合、Oracle Application Express (Oracle APEX) が適している可能性があります。Oracle APEX はビジネス・ロジックのスクリプトにPL/SQLを活用しており、単純なHTMLフォーム向けに生産性の高い環境を提供しているためです。

Oracle Formsアプリケーションを別のテクノロジーに移行する際の課題について説明している、アプリケーション移行に関する次の記事も参照してください。<http://www.oracle.com/technetwork/developer-tools/forms/documentation/formsmigration-133693.pdf>

Oracle BI Publisherへの移行を検討しているOracle Reportsユーザーの場合、Oracle BI Publisherには、移行プロセスに役立つ変換ユーティリティが含まれています。

結論

オラクルは、Oracle FormsとOracle Reportsを引き続きサポートします。Oracle FormsおよびOracle Reportsのサポート・サイクルはOracle Fusion Middleware 11gに準拠し、Oracle DesignerについてはOracle Developer Suite 10gに準拠します。このようにサポートを継続することで、ユーザーはアプリケーションをWebへと容易にアップグレードし、アプリケーション・サーバーが提供する集中配置と共有サービスを活用できます。

JavaおよびJava EEテクノロジーが急速に台頭し、業界での導入が進んでいることから、オラクルはもう1つの戦略として、生産性の高いJava EE開発環境 (Oracle JDeveloper、Oracle ADF、Oracle BI Publisher) を提供しています。これにより、Oracle Forms、Oracle Reports、Oracle Designerのユーザーは、馴染みのあるRADやビジュアルおよび宣言型のアプローチを使用したままで、Java EE開発を取り入れることができます。

既存のOracle FormsおよびOracle ReportsのアプリケーションをWebに配置し、Oracle JDeveloper、Oracle ADF、Oracle BI Publisherを使用して新しくJava EEでの開発を行う機会について検討し、共有サービスとビジネス・ロジックを共有できるように、これらのアプリケーションを同じOracle Fusion Middleware上で統合することをお勧めします。

オラクルの戦略により、ユーザーは長年に渡る既存の投資を引き続き活用しながら、生産性が高く馴染みのある開発環境 (Oracle JDeveloper、Oracle ADF、Oracle BI Publisher) を使用して、それぞれのペースで徐々にJava EEへ移行する手段を得ることができます。

ORACLE®

Oracleアプリケーション開発ツール
Statement of Direction : Oracle Forms、
Oracle Reports、およびOracle Designer
2012年3月
著者 : Oracle Product Management
共著者 :

Oracle Corporation
World Headquarters
500 Oracle Parkway
Redwood Shores, CA 94065
U.S.A.

海外からのお問い合わせ窓口 :
電話 : +1.650.506.7000
ファクシミリ : +1.650.506.7200

www.oracle.com



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment

Copyright © 2012, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は一切間違いがないことを保証するものではなく、さらに、口述による明示または法律による黙示を問わず、特定の目的に対する商品性もしくは適合性についての黙示的な保証を含み、いかなる他の保証や条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクル社の書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

OracleおよびJavaはOracleおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

IntelおよびIntel XeonはIntel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARC商標はライセンスに基づいて使用されるSPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMDロゴおよびAMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devicesの商標または登録商標です。UNIXはX/Open Company, Ltd.によってライセンス提供された登録商標です。0112

Hardware and Software, Engineered to Work Together